

中間支援活動助成(基本)事業 実績報告

団体名	(一社)さんぴいす	代表者名	(職名) 代表理事	(氏名) 河口 紅
事業名	ネットワーク型中間支援事業のモデル化			

< 事業実施実績 >

	相談業務 延べ回数/団体数	ネットワークの構築 ・情報提供 件数	人材育成 (講座開設等) 延べ参加人数/回数	書類作成指導 件数	その他 (調査研究等) 件数
R6 実績	6回/37	21回 合計40,000通配信	14人/3回	6件	1回
R7 計画	定期は6回/年	月1回オンライン交流会 メーリングリスト 随時	3回以上	随時対応	1件
R7 実績	定期6回 随時39 件	オンライン交流会8回 メール配信 6,630通	43人/3回	3件	1件

< 効果と成果 >

オンデマンド学習動画については、昨年より視聴者が微増してはいますが、それほど積極的に活用頂けているとは言えない状況です。その理由の一つにAIの進歩があると思われ、既に無意識の人であってもインターネット検索でAIを使っている人がほとんどとなっている今、「わからないことを学習して解決する」から「わからないことは、(AIに)聞いて解決する」に問題解決の方法自体が大きくシフトしてきていることが考えられます。このため当初は今年度もオンラインコンテンツの更なる制作を予定していましたが、AIの進歩が早すぎて先月できなかったことが今日は出来るといった日進月歩の状態なので、制作したコンテンツの価値が保てない状況と判断し、教材作成ではなくAI活用の伴走をする方向にシフトをさせていただきました。

中間支援のネットワーク化で私どもが最も重視しているのは「持続可能な中間支援モデルの確率」です。今年度のひょうごボランティアプラザが開催した助成金事業報告会においても、活動に必要な人材確保と資金調達がテーマであったように、これまでの1団体による中間支援は行政など公的な支援が無ければ継続が不可能なので、それを専門分野を持つ複数のNPOがネットワーク連携をすることで、お金をかけずに持続可能な中間支援モデルを広げるため、淡路市において実践をおこなっています。

< 今後の展望 >

今年度の事業を通して一番感じたのは、AIの進歩により中間支援活動自体の在り方も大きく変わらなければならない岐路が、すぐ目の前にきているのではないかという事でした。この助成事

業でも中間支援の業務として 相談事業 ネットワークの構築・情報提供 人材育成（講座の開設等） 書類作成指導 その他（研究等）という5本の柱が示されているが、

～ でAIに出来ないのは自ら考え行動に移すことだけで、聞けば相談にも乗ってくれ、何度同じことを聞いても否定をせず寄り添ってくれ、情報もいろいろ教えてくれる。人をお願いしなくてもAIを活用することで新たな人材を確保したことと同じかそれ以上の成果もあげられる。

たぶん、自分で作成するよりちゃんとした書類も作成してくれるし、書類の添削もしてくれる。

指示さえしてもらえば研究にも使える。そのうえ、利用に必要な経済的負担もそれほど多く無い。それに対し、既存の中間支援組織はNPO元年から30年以上経過しても行政などの公的な支援無しでは経済的な自立は難しいところも多いのが現状である。とはいえ、だからこそAIには出来ない支援が何なのか。AIを正しく活用するために必要な支援は何なのかを今一度考えながら、われわれ中間支援に携わる者が進む道を間違えないようにする必要があると感じている。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
中間支援活動助成金	500,000
自己資金等	16,055
合 計	516,055

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	人件費	384,000	370,000
	旅費交通費	13,225	13,000
	消耗品費	10,015	10,000
	小 計	407,240	393,000
	間接経費（一般管理費）	108,815	107,000
	合 計	516,055	500,000